

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 沖山 栄一 会員数 約1,000人)

T E L 03-3333-7771

1 前 文

学習指導要領が新しくなって最初の共通テストとなった。これまで、学習指導要領が改訂されて最初の年の大学入試センターが出題する試験は易化する傾向があるとともに、学習指導要領の基本的な考え方を十分踏まえた出題となる傾向があった。今回もその傾向は本試験のみならず追・再試験でも顕著で、「公共」の出題内容は極めて平易であり、学習指導要領の基本的な考え方を十分意識して出題されている。後期中等教育の学習内容を理解した上で、高等教育において学ぶ基礎基本が身に付いているかどうかを確認し、基礎的基本的な確かな知識に基づき、広い視野から思考力判断力が備わっているかを問う出題となっている。出題分野の極端な偏りはない。以下、具体的に各問について意見と評価を申し述べる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

試験問題の難易度は平易であり、「公共」の授業を履修していれば容易に正答が得られると考えられる。設問数は、地理総合、歴史総合及び公共で各16問であり、解答時間に余裕はないものの決して答えられないほど時間がないわけではない。基礎的基本的な問いを短時間に正確に読み解いて答える学力を重視しているという意図が分かる。配点は基本的に各問3点配点で、思考力や判断力が問われる問いの配点を4点としているのも妥当である。形式は、基本的に、選択式であっても思考力や判断力を問えるように工夫してある。しかし、すべての可能性のある組合せを網羅的に示す選択肢の問いもあり、4択に絞って提示することに出題者側の出題のねらいを受験者に伝えるという意味があることを考えると、網羅的に選択肢を用意することが教育的なのかどうか、疑問は残る。

第1問 新型コロナウイルス感染拡大を経験した二人の生徒が生命倫理の視点から話していることを読み、功利主義と義務論、人権保障の発展過程、地方自治と条例、契約を問う。

問1 功利主義に立つか義務論に立つかでどのように問題の捉え方が異なるかを問う基礎的基本的な問い。

問2 三つの考え方と「バージニア権利章典」もしくは「アメリカ独立宣言」、『権利章典』、モンテスキュー『法の精神』の三つの資料を結びつける問い。知識で正解は得られるが思考力判断力で解ける力を問う。

問3 条例を例にパブリックコメント、自由権、幸福追求権についての基礎的基本的な知識を問う。単なる一問一答にならないように、会話文の文脈を正しく読み取れる力を前提にしている。

問4 契約についての正誤判定。平易。家庭科でも学習する範囲。

第2問 地方自治を大きくくりとして、地方政治の特色、直接民主制と間接民主制、政治思想などについて、基礎的基本的な知識から思考力判断力まで広く問う。

問1 地方自治の本旨、直接民主制の要素、二代表制、いずれも基礎的基本的な知識を確認する。一問一答にならないよう文脈をたどり考えて解くように工夫されている。

問2 統一地方選挙で議会選挙が無投票となった自治体数をあらかず表の読み取り。難しくは

ないが文章と表を一つ一つ見比べていかななくてはならないところがきつい。

問3 直接民主制と間接民主制を文脈から考えて当てはめる思考力判断力の問い。

問4 政治社会思想からホップズとロックの特徴を問い、職業としての議員のもつべき気概、
矜持^{きやうじ}を問う。新自由主義的な価値が跋扈する今日だからこそ、高校生に人間としての在り
方生き方を考えさせる大切な問い。

第3問 データサイエンスに関する資料読み取りの問い。知識としては租税に関する問い。

問1 選択肢の説明に従って資料を読んでいくと正答が得られる。

問2 ゲーム理論の基礎的基本的な問い。メモに従い丁寧に考えれば正答は容易。

問3 税制についての基礎的基本的な知識を問う。

問4 会話文を読み文脈から、自動運転中に事故が起こった場合の責任の所在、フェイクニュー
ース、ウェルビーイングの程度が上がる状況について問う。

第4問 社会保障に関する課題を若い世代としてどのように取り組むかを考えるという設定で、
青年期、労働と社会保障などの分野の基礎的基本的な知識と確かな知識の理解に基づく思考力
判断力が問われた。

問1 モラトリアム、通過儀礼など青年期の特徴に関する基礎的基本的な知識を具体例に即し
て問う。

問2 国民負担率と50歳までに行った老後の生活に向けてしていたことの調査から、スウェ
ーデン、日本及びアメリカを推測するという思考力判断力の問い。アメリカの特徴として考
えられる市場原理を最優先し、自己責任の国であること、株式保有の大きさ、国民負担率の
低さなどから正答は容易。

問3 社会保障の在り方から公的年金制度について付加方式と積立方式を比較する。平易。

問4 若者による課題解決への提言を考える問い。セーフティネット、労災保険、ボランティ
アなどいずれも基礎的基本的な用語の知識が問われた。

3 総評・まとめ

受験者が基礎的基本的な知識を確認し、受験者が自ら獲得した知識を活用し、思考力や判断力を働かせ、今日に生きる私たちが抱える社会的な課題をいかに解決したらよいかを当事者意識をもって思考する力があるかを問うとともに思考しているかを問う問題である。問題はいずれも学習指導要領に示されている「公共」で学習する範囲内であり、極端な難問や奇問はない。問題のリード文が高校生が調べたり学んだりしている状況から示されることが多い。これは高大接続を意識してのことであろう。しかし、高校生が学んだ内容を理解していれば読める1ページ程度の文章を読ませて考えさせるというセンター試験で長く出題されていた形式も復活しても良いのではないかな。ものを考えることの大切さを受験者に示す意味で思考力判断力を問う重厚な問題が一つあってもよいだろう。後期中等教育の学習が高等教育における研究へどう発展できるのかを高校生に示すことも教育的配慮であろう。

4 今後の共通テストへの要望

共通テストの高校現場への影響力は極めて大きい。出題者の意図を超えて出題者の意図とは異なったメッセージとして教育の現場に想定外のメッセージを伝えることになる場合さえある。それだけに、後期中等教育の健全な発展に資する質の高い問題を作成し続けてもらいたい。安易な問いは避け、基礎的基本的な知識を理解しているか、理解した知識を用いて大学で学ぶにふさわしいだけの思考力や判断力があるのかを判断できる問題を作成し続けてもらいたい。さらに、大学側から高

校生へのメッセージとしての役割があることを踏まえ、リード文については高等学校の学びを想定したものだけでなく、エッセイとしても読み込むと社会科学の基本的理解が広がるような優れたリード文による問題も期待する。